

特定非営利活動法人 定款例

特定非営利活動法人 定款

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、特定非営利活動法人 という。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を 県 市 町  
丁目 番号に置く。

2 この法人は、前項のほか、従たる事務所を 県  
市 町 丁目 番号、...に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、[ 1 ]に対して、[ 2 ]に関する  
事業を行い、[ 3 ]に寄与することを目的とする。

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次に  
掲げる種類の特定非営利活動を行う。

(1)

(2)

.....

(事業)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次の  
事業を行う。

(1) 特定非営利活動に係る事業

1 事業

2 事業

この欄における「法」とは、「特定  
非営利活動促進法」をいう。

<第1条> ...必要的記載事項(法第  
11条第1項第2号)

<第2条> ...必要的記載事項(法第  
11条第1項第4号)

注1 「主たる事務所」と「従たる  
事務所」を明確に区分した上で、  
設置する事務所をすべて記載す  
る。

注2 2以上の都道府県の区域内に  
事務所が設置されていることを明  
確にする。

<第3条> ...必要的記載事項(法第  
11条第1項第1号)

注 特定非営利活動を行うことを主  
たる目的とした法人であること等  
を明らかにするため、目的には、  
1 受益対象者の範囲、2 主要な  
事業、3 法人の事業活動が社会に  
もたらす効果(どのような意味で  
社会の利益につながるのか)や法  
人としての最終目標等を具体的か  
つ明確に伝わるように記載する。

<第4条> ...必要的記載事項(法第  
11条第1項第3号)

注 法の別表に掲げる活動の種類  
のうち、該当するものを選択して記  
載する(複数の種類の選択も可  
能)。

<第5条> ...必要的記載事項(法第  
11条第1項第3号及び第11号)  
法第5条

注1 第1項・・・法人が行う具体  
的な事業の内容を記載する。その  
際、「特定非営利活動に係る事業」

.....

(2) その他の事業

- 1 事業
- 2 事業

.....

- 2 前項第2号に掲げる事業は、同項第1号に掲げる事業に支障がない限り行うものとし、収益を生じた場合は、同項第1号に掲げる事業に充てるものとする。

### 第3章 会員

#### (種別)

第6条 この法人の会員は、次の種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下「法」という。）上の社員とする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人及び団体

(2)

.....

#### (入会)

第7条 会員の入会については、特に条件を定めない。

- 2 会員として入会しようとするものは、理事長が別に定める入会申込書により、理事長に申し込むものとし、理事長は、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。

- 3 理事長は、前項のもの入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

#### (入会金及び会費)

第8条 会員は、総会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

と「その他の事業」の内容は明確に区分しなければならない。

注2 「その他の事業」を行わない場合は、「この法人は、第3条の目的を達成するため、次の特定非営利活動に係る事業を行う」旨を記載し、第1項第2号及び第2項の記載を要しない。

注3 第2項...法第5条第1項

<第3章> ...社員の資格の得喪に関する事項は必要的記載事項（法第11条第1項第5号）法第2条第2項第1号イ

<第6条>

注1 ここでいう「社員」とは、団体の構成員のことで、総会議決権を有する者が該当する。

注2 賛助会員等、正会員以外の会員種別を定める場合は、正会員とそれ以外の会員を区別して、第2号以降にその旨を記載する。

<第7条>

注1 第6条において、正会員以外の会員について定める場合は、正会員とそれ以外の会員を区別して記載することもできる（以下、定款第11条まで同じ。）

注2 社員（正会員）以外の会員の入会について条件を定めることができるが、社員（正会員）の資格取得については、不当な条件を付けてはならない。

<第8条>

注 入会金又は会費の設定がない場合は、記載を要しない。

( 会員の資格の喪失 )

第 9 条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 退会届の提出をしたとき。
- (2) 本人が死亡し、又は会員である団体が消滅したとき。
- (3) 継続して 年以上会費を滞納したとき。
- (4) 除名されたとき。

( 退会 )

第 10 条 会員は、理事長が別に定める退会届を理事長に提出して、任意に退会することができる。

( 除名 )

第 11 条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを除名することができる。この場合、その会員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) この定款等に違反したとき。
- (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。

( 抛出金品の不返還 )

第 12 条 既納の入会金、会費及びその他の抛出金品は、返還しない。

#### 第 4 章 役員及び職員

( 種別及び定数 )

第 13 条 この法人に次の役員を置く。

- (1) 理事 人
- (2) 監事 人

2 理事のうち、1人を理事長、 人を副理事長とする。

( 選任等 )

第 14 条 理事及び監事は、総会において選任する。

< 第 9 条 >

注 第 4 号...除名を資格喪失の条件とする場合は、除名に関する規定を置く(定款第 11 条参照)。

< 第 10 条 >

注 退会が任意であることを明確にする。任意に退会できない場合などは法に抵触する。

< 第 4 章 > ...役員に関する事項は必要的記載事項(法第 11 条第 1 項第 6 号)

< 第 13 条 > ...法第 15 条(理事の定数は 3 人以上、監事の定数は 1 人以上)

注 1 第 1 項...「理事」及び「監事」を明確に区分する。なお、役員の定数は「 人以上 人以下」というように上限と下限を設けることもできる。

注 2 第 2 項...職名は、理事長、副理事長以外の名称を使用することもできる。

< 第 14 条 >

注 1 第 1 項...総会以外で役員を選

- 2 理事長及び副理事長は、理事の互選とする。
- 3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは3親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び3親等以内の親族が役員の総数の3分の1を超えて含まれることにはならない。
- 4 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねることができない。

(職務)

第15条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

- 2 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故あるとき又は理事長が欠けたときは、理事長があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。

- 3 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。

- 4 監事は、次に掲げる職務を行う。

- (1) 理事の業務執行の状況を監査すること。
- (2) この法人の財産の状況を監査すること。
- (3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。
- (4) 前号の報告をするため必要がある場合には、総会を招集すること。
- (5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べ、若しくは理事会の招集を請求すること。

(任期等)

第16条 役員の任期は、年とする。ただし、再任を妨げない。

任することも可能。

注2 第3項...法第21条

法律上は、理事・監事が6人以上の場合に限り、配偶者もしくは3親等以内の親族を1人だけ役員に加えることができる。

注3 第4項...法第19条

<第15条>

注1 第1項...法第16条

注2 第2項...副理事長が1人の場合は、「理事長があらかじめ指名した順序によって、」という記載を要しない。

注3 第4項...法第18条

注4 監事は代表権を有しない。

<第16条>

注1 第1項...必要的記載事項(法第24条第1項(役員任期は2年以内において定款で定める期間とする。))

注2 法人運営の円滑化を図るため、定款第14条において役員を総会で定める旨を明記している場合に限り法第24条第2項の規定に基づき、次の規定を置くことができる。「前項の規定にかかわらず、後任の役員が選任されていない場

- 2 補欠のため、又は増員によって就任した役員の任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。
- 3 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(欠員補充)

第17条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

第18条 役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを解任することができる。この場合、その役員に対し、議決する前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) 心身の故障のため、職務の遂行に堪えないと認められるとき。
- (2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。

(報酬等)

第19条 役員は、その総数の3分の1以下の範囲内で報酬を受けることができる。

- 2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。
- 3 前2項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(職員)

第20条 この法人に、事務局長その他の職員を置く。

- 2 職員は、理事長が任免する。

第5章 総会

合には、任期の末日後最初の総会が終結するまでその任期を伸長する。」

注2 第3項...役員が存在しない期間が生じた場合、法人が損害を被るおそれもあることから、前任者は、辞任又は任期満了後においても応急的に業務執行義務を負うものとされている。しかし、新たな権限の行使まで認められるものではないから、至急後任者を選任する必要がある。なお、この規定を根拠に2年を超えて役員任期を伸長することはできない。

<第17条>...法第22条

<第19条>

注 第1項...法第2条第2項第1号  
□

<第5章>...会議に関する事項は  
要的記載事項(法第11条第1項第

(種別)

第 21 条 この法人の総会は、通常総会及び臨時総会の 2 種とする。

(構成)

第 22 条 総会は、正会員をもって構成する。

(権能)

第 23 条 総会は、以下の事項について議決する。

- (1) 定款の変更
- (2) 解散
- (3) 合併
- (4) 事業計画及び収支予算並びにその変更
- (5) 事業報告及び収支決算
- (6) 役員を選任又は解任、職務及び報酬
- (7) 入会金及び会費の額
- (8) 借入金(その事業年度内の収入をもって償還する短期借入金を除く。第 50 条において同じ。)その他新たな義務の負担及び権利の放棄
- (9) 事務局の組織及び運営
- (10) その他運営に関する重要事項

(開催)

第 24 条 通常総会は、毎事業年度 回開催する。

2 臨時総会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 理事会が必要と認め招集の請求をしたとき。
- (2) 正会員総数の 分の 以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
- (3) 第 15 条第 4 項第 4 号の規定により、監事から招集があったとき。

(招集)

第 25 条 総会は、第 24 条第 2 項第 3 号の場合を除き、理事長が招集する。

2 理事長は、第 24 条第 2 項第 1 号及び第 2 号の規定による請求があったときは、その日から 日以内に臨時総会を招集しなければならない。

3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって、少なくとも 5 日前までに通知しなければならない。

(議長)

7号)

<第 21 条>

参考 民法第 60 条及び第 61 条

<第 23 条>

参考 民法第 63 条(定款で理事会等に委任しているもの以外はすべて総会の議決事項)

なお、法定の総会議決事項(定款変更、解散及び合併)以外の事項については、理事会等の議決事項とすることができる(定款第 3 2 条参照)。

<第 24 条>

注 1 第 1 項...民法第 60 条(少なくとも年 1 回通常総会を開催する必要がある。)

注 2 第 2 項第 1 号...民法第 61 条第 1 項

注 3 第 2 項第 2 号...民法第 61 条第 2 項(総社員の 5 分の 1 以上を必要とするが、定款をもってこれを増減することは可能)

<第 25 条>

注 第 3 項...民法第 62 条(総会の招集は、定款で定めた方法により、少なくとも 5 日前までに行われなければならない。)

第 26 条 総会の議長は、その総会において、出席した正会員の中から選出する。

(定足数)

第 27 条 総会は、正会員総数の 分の 以上の出席がなければ開会することができない。

(議決)

第 28 条 総会における議決事項は、第 25 条第 3 項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(表決権等)

第 29 条 各正会員の表決権は、平等なるものとする。

2 やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

3 前項の規定により表決した正会員は、第 27 条、第 28 条第 2 項、第 30 条第 1 項第 2 号及び第 51 条の適用については、総会に出席したものとみなす。

4 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第 30 条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 日時及び場所

(2) 正会員総数及び出席者数(書面表決者又は表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること。)

(3) 審議事項

(4) 議事の経過の概要及び議決の結果

(5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人 2 人以上が署名、押印しなければならない。

## 第 6 章 理事会

(構成)

第 31 条 理事会は、理事をもって構成する。

< 第 27 条 >

参考 法第 25 条(定款変更の際の定足数は、定款に特別の定めがない限り、社員総数の 2 分の 1 以上である。)

< 第 28 条 >

参考 第 1 項...民法第 64 条

< 第 29 条 >

注 1 第 1 項及び第 2 項...民法第 65 条

注 2 第 4 項...民法第 66 条

< 第 6 章 > ...会議に関する事項は必要的記載事項(法第 11 条第 1 項第 7 号)

(権能)

第32条 理事会は、この定款で定めるもののほか、次の事項を議決する。

- (1) 総会に付議すべき事項
- (2) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (3) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

(開催)

第33条 理事会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 理事長が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の 分の 以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
- (3) 第15条第4項第5号の規定により、監事から招集の請求があったとき。

(招集)

第34条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長は、第33条第2号及び第3号の規定による請求があったときは、その日から 日以内に理事会を招集しなければならない。
- 3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって、少なくとも 日前までに通知しなければならない。

(議長)

第35条 理事会の議長は、理事長がこれに当たる。

(議決)

第36条 理事会における議決事項は、第34条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

- 2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(表決権等)

第37条 各理事の表決権は、平等なるものとする。

- 2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決することができる。
- 3 前項の規定により表決した理事は、第38条第1項第2号の適用については、理事会に出席したものとみなす。
- 4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第38条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

<第32条>

注 総会の権能と整合性をとる(定款第23条参照)。

参考 第3項・・・民法第62条(総会の招集は、定款で定められた方法により、少なくとも5日前までに行わなければならない。)

<第36条>

参考 第2項...法第17条

- (1) 日時及び場所
  - (2) 理事総数、出席者数及び出席者氏名（書面表決者にあつては、その旨を付記すること。）
  - (3) 審議事項
  - (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
  - (5) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が署名、押印しなければならない。

## 第7章 資産及び会計

### （資産の構成）

第39条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

- (1) 設立当初の財産目録に記載された資産
- (2) 入会金及び会費
- (3) 寄付金品
- (4) 財産から生じる収入
- (5) 事業に伴う収入
- (6) その他の収入

### （資産の区分）

第40条 この法人の資産は、これを分けて特定非営利活動に係る事業に関する資産及びその他の事業に関する資産の2種とする。

### （資産の管理）

第41条 この法人の資産は、理事長が管理し、その方法は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

### （会計の原則）

第42条 この法人の会計は、法第27条各号に掲げる原則に従って行うものとする。

### （会計の区分）

第43条 この法人の会計は、これを分けて特定非営利活動に係る事業に関する会計及びその他の事業に関する会計の2種とする。

### （事業計画及び予算）

第44条 この法人の事業計画及びこれに伴う収支予算は、理事長が作成し、総会の議決を経なければならない。

### （暫定予算）

第45条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を

< 第7章 > ...必要的記載事項（法第11条第1項第8号及び第9号）

< 第40条 >

注 特定非営利活動に係る事業のみを行う場合は、記載を要しない。

< 第42条 >

注 「法第27条各号に掲げる原則」とは、正規の簿記の原則、真实性、明瞭性の原則及び継続性の原則をいう。

< 第43条 >

注 法第5条第2項

特定非営利活動に係る事業のみを行う場合は、記載を要しない。

経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収入支出することができる。

2 前項の収入支出は、新たに成立した予算の収入支出とみなす。

(予備費の設定及び使用)

第46条 予算超過又は予算外の支出に充てるため、予算中に予備費を設けることができる。

2 予備費を使用するときは、理事会の議決を経なければならない。

(予算の追加及び更正)

第47条 予算議決後にやむを得ない事由が生じたときは、総会の議決を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。

(事業報告及び決算)

第48条 この法人の事業報告書、収支計算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、理事長が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

(事業年度)

第49条 この法人の事業年度は、毎年 月 日に始まり翌年 月 日に終わる。

(臨機の措置)

第50条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借入れその他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、総会の議決を経なければならない。

## 第8章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第51条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の 分の 以上の多数による議決を経、かつ、軽微な事項として法第25条第3項に規定する以下の事項を除いて所轄庁の認証を得なければならない。

- (1) 主たる事務所及び従たる事務所の所在地(所轄庁の変更を伴わないもの)
- (2) 資産に関する事項
- (3) 公告の方法

<第49条> ... 必要的記載事項(法第11条第1項第10号)

<第8章> ... 定款の変更と解散に関する事項は 必要的記載事項(法第11条第1項第12号及び第13号)

<第51条> ... 法第25条

注1 定款変更の際には、定款に特別の定めがない限り、社員総数の2分の1以上が出席し、その出席した社員の4分の3以上の議決が必要となる。

注2 「軽微な事項」とは、所轄庁の変更を伴わない事務所の所在地の変更(定款第2条参照)、資産に関する事項(第7章参照)、公告の方法(第9章参照)をいう。

(解散)

第52条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議
- (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
- (3) 正会員の欠亡
- (4) 合併
- (5) 破産
- (6) 所轄庁による設立の認証の取消し
- (7)  
.....

2 前項第1号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の 分の 以上の承諾を得なければならない。

3 第1項第2号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

(残余財産の帰属)

第53条 この法人が解散(合併又は破産による解散を除く。)したときに残存する財産は、法第11条第3項に掲げる者のうち、[ 1 ]に譲渡するものとする。

(合併)

第54条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の 分の 以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

第9章 公告の方法

<第52条>

注1 第1号...法第31条第1項第1号

注2 第2号...法第31条第1項第3号

注3 第3号...法第31条第1項第4号

注4 第4号...法第31条第1項第5号

注5 第5号...法第31条第1項第6号

注6 第6号...法第31条第1項第7号

注7 第7号以下...法第31条第1項第2号(定款で定めた解散事由の発生)

注8 第2項...民法第69条(解散の際には、定款に特別の定めがない限り、社員総数の4分の3以上の承諾が必要となる。)

注9 第3項...法第31条第2項

<第53条> ...法第11条第3項、法第32条

注1 1に記載する「残余財産の帰属すべき者」は、他の特定非営利活動法人、国又は地方公共団体、財団法人、社団法人、学校法人、社会福祉法人、更生保護法人から選定されなければならない。

注2 帰属先を定めない場合、又は帰属先が明確でない場合は、国又は地方公共団体に譲渡されるか国庫に帰属されることとなる。

<第54条>

注 法第34条(定款に特別の定めがない限り、合併の際には、社員総数の4分の3以上の議決が必要。)

<第9章> ...必要的記載事項(法第11条第1項第14号)

(公告の方法)

第 55 条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、 に掲載して行う。

## 第 10 章 雑則

(細則)

第 56 条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、理事長がこれを定める。

## 附 則

- 1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。
- 2 この法人の設立当初の役員は、次に掲げる者とする。  
理事長  
副理事長  
理事  
同  
.....  
監事  
同  
.....
- 3 この法人の設立当初の役員の任期は、第 16 条第 1 項の規定にかかわらず、成立の日から 年 月 日までとする。
- 4 この法人の設立当初の事業計画及び収支予算は、第 44 条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによるものとする。
- 5 この法人の設立当初の事業年度は、第 49 条の規定にかかわらず、成立の日から 年 月 日までとする。
- 6 この法人の設立当初の入会金及び会費は、第 8 条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。  
(1) 入会金 円  
(2) 年会費 円

< 第 55 条 >

注 公告とは、第三者の権利を保護するため、第三者の権利を侵害するおそれのある事項について広く一般の人に知らせることであり、法人の活動実態に応じて、官報、新聞、インターネットホームページ等を活用することが考えられる。

< 附則 >

注 1 第 2 項... 必要的記載事項 ( 法第 11 条第 2 項 )

注 2 第 3 項... 総会の開催時期を考慮に入れ、役員任期の末日を事業年度の末日の 2 ~ 3 ヶ月後にずらしておく、法人運営に支障をきたすおそれが少ない ( 定款第 16 条注 2 参照 )

注 3 第 6 項... 正会員以外の会員について定める場合は、正会員と区別して記載する。